

I 学校研究全体計画

1. 研究主題と主題設定の理由

(1) 研究主題

主体的に考え、ともに学び合う子の育成
～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して～

(2) 主題設定の理由

本校は、「自ら学び、心豊かでたくましく 未来の創り手となる児童の育成」を教育目標に掲げ、「よく考える子」「たくましい心と体の子」「思いやりの心で協力し合う子」を目指す児童像として、小規模校・地域環境の強みを生かした学校づくりを進めている。

これまで、国語科を中心とした「主体的に考え、ともに学び合う子の育成」を目指し、副題を「学びの連続性を目指して」と設定し、国語科での学びを生かす力の育成を図ってきた。

昨年度の成果として、説明文・物語文の系統表を作成し、カリキュラムマップと併せて活用することで、各学年でつける力だけでなく学年間の系統性も見えてきた。そして、国語科でついた力を発揮するための表現の場を設け、他教科とのつながりを教師・児童ともに意識しながら学習を進めることができた。また、振り返りの視点を具体的に示すことで、児童は学び方や自分についての力を振り返ったり、次時への学びや自分の生活につなげたりと、「学びの変容や達成感を感じる事ができた」という児童が多く見られるようになってきた。一方、教師については、授業におけるねらいや活動の焦点化に課題が多く見られた。そのため、単元のゴールの姿だけでなく、1時間ごとの目指す児童の姿をより明確にし、そのための活動を精選していけるとよい。そして、児童については、自分の考えは伝えられるが、根拠を明らかにしたり、よりよい考えにしたりすることが十分ではない様子が見られた。児童が他者参照の視点を持ち、友達と話し合ったり目的に応じて ICT を活用したりし、自分の学びをよりよいものにしていこうとする主体性を身に付けていく必要があると考える。

そこで、今年度は、昨年度の取組や実践を土台とし、協働場面での教師の出場や児童への視点の持たせ方、また、小規模校の強みを生かした丁寧な見取りと、個に応じた適切な指導・支援にも重点を置き、個別最適な学びと協働的な学びを一体とした授業づくりを進めていく。そうすることで、児童が自己の学びの目的のために主体的に活動し、学びの質を上げていけるようにする。

2. 研究の内容

(1) 授業づくり

①系統性を意識し、資質・能力を高める単元構想

- ・説明文・物語文系統表, カリキュラムマップを活用し, 国語科でつけた力を表現する場を設ける。
- ・単元構想シートを活用し, 単元全体を通してつきたい力, 毎時間のゴールの姿を明確にした単元構想をする。
- ・ねらいに応じて, 個別最適な学びと協働的な学びを単元の中に位置づける。

②学びを広げ深める話し合いの充実

- ・デモンストレーションを行い, 目指す授業像や学び合いの姿を共有し, 実践する。
- ・「学び合うための聞き方・話し方」について, 重点的に取り組む期間を設け, 児童の実態に合わせて各学年で目標を立てる。
- ・発問の精選や活動の焦点化を図る。
- ・ペア・グループ学習や全体での話し合いの場面では, 他者参照の視点を児童に持たせる。
- ・学習用端末やデジタル教科書を効果的に使用する。

③見取りと適切な指導・支援

- ・ねらいと照らし合わせた見取りと, 次の指導への見取りを適切に行う。
- ・個に応じた学習環境を整える。(教材・相手・方法など)
- ・個と全体の状況に応じた支援・指導を行う。
- ・文字数や構成, 語句などの条件に沿った言語活動を行う。
- ・振り返りの視点をもとに, ねらいに応じた振り返りをする。

(2) 学習基盤づくり

①基礎学力の定着

- ・家庭学習強化週間を設け, 学年に応じた指導をすると共に家庭学習の習慣化を図る。
- ・思考の変容や学習内容が分かりやすいノート指導をする。
- ・学期に1回, 漢字・計算検定を行い, 漢字を読み書きする力・計算力の定着を図る。
- ・学力テストの結果・分析をもとに, 授業改善をする。

②学習環境の基盤づくり

- ・「木場小スタンダード」を掲示し, 授業の進め方を共有する。
- ・デモンストレーションで「木場っ子の目指す授業像」を共有し, 教師・児童ともに意識しながら授業に取り組む。
- ・児童とともに学習計画を立て, 見通しをもって学習を行う。
- ・デジタル教科書を整備する。

③授業力向上

- ・各学年1回の研究授業を行う。指導案の作成前には、単元構想シートをもとに学年部会で話し合う。また、全員で事前に模擬授業を行うことで、学習課題や展開、発問等の精査を図り、職員の授業づくりへの意識を高める。
- ・教師間で授業交流を行い、授業づくりや指導力の向上を目指す。
- ・計画的にOJTを行い、教職員同士で学び合うことで、指導力の向上を目指す。
- ・学期に1回「子ども授業参観」を行い、デモンストレーションで共有した目指す姿に近づけているかを児童同士で確認する。授業をみる視点を与え、参観学年の良いところを見つけて伝え、自分の学年の良いところや課題にも気付くことで、授業をつくる主体者としての児童の意識を高める。

3. 研究の検証

(1) 授業づくり

①系統性を意識し、つけたい力を明確にした単元構想

- ・研究授業での成果や課題を踏まえ、単元構想シートと指導案の改善案を作成する。
- ・研究授業後には、研究主任と授業者が整理会シートを作成し、成果や課題、共通実践として取り組む内容を職員間で共通理解する。

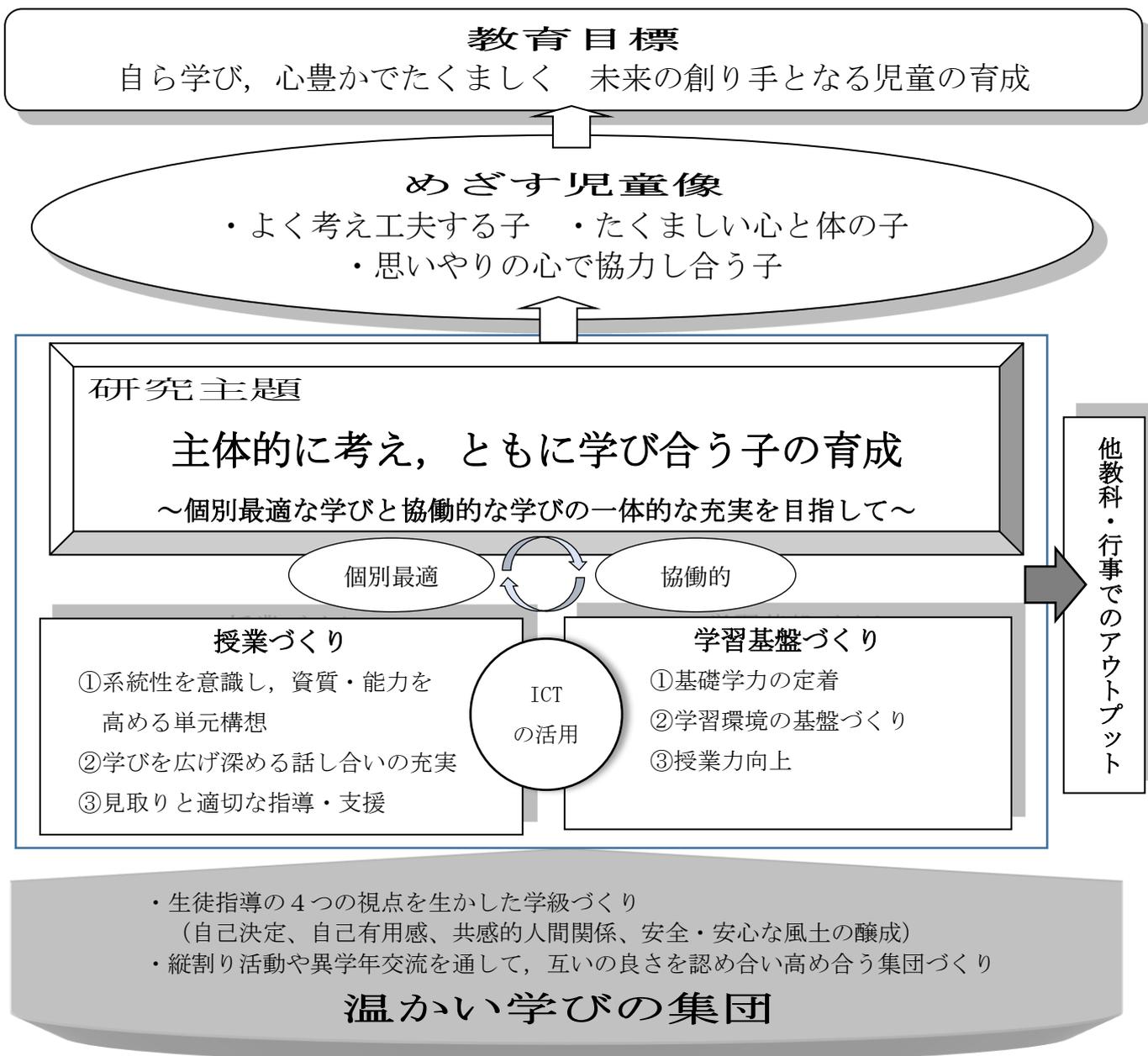
②学びを広げ深める話し合いの充実

- ・教師はパワーアップシート、児童は学級での目標シートをもとに、聞く力・話す力・学び合いについて振り返る。
- ・学校評価アンケート（児童アンケート）の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」に対する肯定的な回答が平均で90%以上。

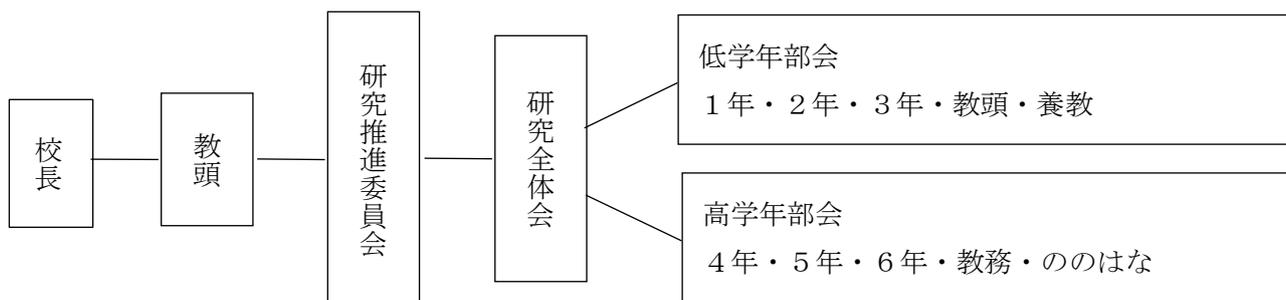
③見取りと適切な指導・支援

- ・研究授業の指導案で見取りの場面を位置づけ、整理会で振り返る。
- ・国語科の活用カテストでの学年平均が標準得点以上。

4. 研究全体構想図



5. 研究組織



II. 研修計画

★1学年1回の研究授業を行う。学期に1回、授業交流を行う。

月	内容
4月	研究の基本方針・研究主題などの決定，組織づくり，研究計画の決定 授業スタイルの確認，学習規律の確認，研究概要の具体的提案 学習基盤づくり，指導案の書き方 学校力向上プランの作成 学力調査実施4・6年
5月	国語科 教材研究・研究授業（提案授業） 学力調査の自校採点・分析
6月	全校集会での6年デモンストレーション 国語科 教材研究・研究授業 授業交流
7月	国語科 教材研究・研究授業 1学期の振り返り 学校力向上プランの見直し
8月	研究の検証・分析・改善
9月	国語科 教材研究・研究授業 授業スタイルの確認，学習規律の確認
10月	全校集会での5年デモンストレーション 国語科 教材研究・研究授業 授業交流
11月	国語科 教材研究・研究授業
12月	国語科 教材研究・研究授業 2学期の振り返り 研究の検証・改善・改善，研究のまとめ提案
1月	研究紀要の作成 授業スタイルの確認，学習規律の確認
2月	授業交流 本年度の振り返り 学校力向上プランの見直し
3月	次年度の方向性の検討